



写真5 教育学部保健室

(写真4)と教育学部の保健室(写真5)がある。両保健室では、救急薬品を常備し、専任の看護婦が救急処置や指導助言、一般医療機関への紹介等を行っている。また、保健管理センターの医師が毎週三回、神経精神科医師が毎月二回、心理相談員が毎週一～二回、留学生相談員が毎週一回来室し、教職員や学生の利用に供している。

しかし、総合科学部やその他の学部の移転とともになつて、学生や教職員が急増するが、それに対しても西条キャンパス周辺の医療施設は十分に整備されているとはいえない。急増する学生や教職員の保健管理に対処するためには、健康管理センターを早急に整備する必要がある。西条キャンパスの保健管理センターは、現在の厚生課医務室、学部に設置されている保健室を整理統合し、一元的な管理運営を行うとともに、広いキャンパスと一万人を行なうことを予定している。

西条いい町、我々の町、そしてこれからの町

生物生産学部 応用生化学講座

江坂宗春

西条の生活に関して、書いてくれといわれた。なぜ私が、ということになるが、昨年、本部教職員組合で、西条キャンパスの環境整備の問題を担当したからだということだ。一応、引き受けることにした。しかし、私が書いたとしても、それは私の意見であって、みんなの意見ではない。「西条の生活はどう」と聞かれても、答えは千差万別であろう。

「田舎で緑が一杯でいいところだ」と答える人もいるし、「田舎でなにもなく不便なところだ」と答える人もいるだろう。というわけで、私の独断と偏見をお許し頂いて書いてみたい。

私は生まれて二七年間名古屋に住んだ。そして、生物生産学部に赴任し六年間福山、そして西条移転で、今はががら第二宿舎の住人、はや四年過ぎた。都会から中堅都市そして発展途上都市へと。やっぱり、物質的な面では

不便になつた。が、逆に精神的な面で豊かになつた(ゆつたりした)のかもしれない。先日、東京へ出張した。朝、昼、夜、一日中、人でごつたがえしている。なぜ、こんなに人が多いのかと思う、ボーとしている人にあたつてしまう。時間の流れは速い。都会人と自負していた私もベースについていけない。まわりは人工物ばかりで何か冷たい。いやに疲れる。西条に戻つてやつと安らいだ。毎日、官舎から、ウグイスのさえずりを聞きながら、緑をいっぱい目にいれながら、まむし注意の立て札が目につく道を自転車を駆つて学校に通つている私にとつてもはや都会人としての資格を剥奪されたのかもしれない。ともかく、西条にはまだまだ自然は残つている。これは、最大にいいことだ。加えて、気候もいい。移転前、西条の冬は大雪で悩まされる。車のチ

エーンは必須だ、と聞いていた。ところがこ

の四年間、私は車にチエーンをつけたことがない。きっと雪は大都会東京より少ないと思う。ただ、夜の冷え込みはきつい。また、霧も凄い、三永の水源地が発祥と聞く。夏はどうだ。やはり昼間は暑い。が、夕方になると一風あつて気温は下がり暑さは和らぐ。これがいい。夜はクーラーなくとも大丈夫。そうなると、西条の生活での問題は不便ということか。では、具体的に何が不便か。まず、大学周辺、特に官舎に住んでいる人は車が必要となる。少なくとも、大学や官舎の近く（2km以内）にスーパーはない。官舎の方で車を所有されていない方も数名いるが、徒歩や自転車での買い物はつらい。坂あり谷あり、また、道も整備されていないところも多く、危険箇所もたくさんある。かといって、公共交通の便も良くない。期待するのは下見学生街、しかし、スーパーや飲食店ができるとの計画はあれどなかなか進んでないそうだ。そういうえば、西条に来て残念なのは、ちょっと一杯というのが非常に少なくなつた。とにかく、大学の近くに赤ちようちはない。飲むなら、駅近辺まで行かないとだめ、ただ、わざわざバスに乗つて飲みにいくのも面倒だ。それではと、研究室で一杯と学生を誘うと、「今日は車ですから」と丁重に断られる。いか悪いか、酒をつうじての交流は少なくなつた。こういう大学こそ、「生協ぐらいで酒をだしては」といいたくなる。また、喫茶店も少ない。コーヒ一党の私。名古屋、福山の時

代は、学校に行く前にモーニングコーヒーとしゃれたこともできた。残念ながら今は学校へ行く前に開いている喫茶店はない。帰りもだめ、夜八時をすぎると、近くの喫茶店は全部しまっている。喫茶店で学生たちとディスカッションということもついぞなくなつた。こうなると、毎日学校と官舎の往復、まじめでよろしい、研究もできてよろしいということになる。が、残念ながら研究はさほど進んでいない。まじめではない私には何か一つ物足りなさを感じる。時々、スポーツ新聞とか週刊誌が無性に読みたくなる事がある。遊びの情報不足か、最近、その面で学生たちの会話についていけない。年とつたせいかもしれないが。自身の職員の方や学生たちにはもつと大変であろう。そういうば、コンビニエンスストアがやたら目につく。聞くところによると、大学近くのコンビニエンスストアが中国地方の売上No.1だそうだ。夜遅くひとり寂しくお弁当、というところか。大学がしおぎを削る時代、もちろんカリキュラムも大事だが、大学周辺の環境も魅力がなければと心配する。魅力ある下見学生街を早くと願う。とはいえる、私にはががら宿舎の生活はまずまず快適だ。年に一度、第一と第二ががら宿舎合同のソフトボール大会があつて、汗を流した後バーベキューで一杯のむ。また、先日は第二ががらの官舎の方で子供会と自治会合同でカレー、ビアパーティを開いた。生物生産の方から実験で余った鯛や肉の差し入れ

もあり、花火などして子供ともども楽しんだ。春には恒例の花見もある。年に二回みんなで草刈をして環境保全にも努めている。それで、問題はある。この度、官舎で駐車料金をとるという。駅の近くのショッピングセンターで道に線引きして駐車場にした。お金をとるからはちゃんととした駐車場を作っていたのだ。一方、第二宿舎には子供の遊び場も用意されてなかつた。仕方ないから、みんなで、ちょっととした遊び場をつくつた。しかし、駐車場のとなりで危険きわまりない。以前、子供が車に手をひかれた。幸い、軽傷ですんでよかつたけど。安全な子供の遊び場を作つていただきたいのだ。よろしくお願ひします。ともあれ、ががら宿舎ではみんな結構なごやかにやつていて。官舎に住もうかどうか迷つてゐる方、どうぞ、ががら宿舎にて来てみんさい。（官舎の宣伝になつちやつてお許しください）

ともかく、酒の町、西条、いいところいっぱい、もちろん、悪いところもある。悪いところはみんなで良くしていけばいい。愚痴だけで終わつてはだめ、大学が町から孤立してもだめだと思う。みんなで良くなるよう努力しなくては。西条をよりいい町に。我々広島大学人の町でもあるから。そう、西条いい町、我々の町、そしてこれから町。